

## 元気なクリエイターと最新の設備でハイクオリティな映像をトータルプロデュースする株式会社元気な事務所

京都を中心に、テレビ番組やCM、企業ビデオ、CG、WEBなどクリエイティブで幅広い映像制作を手がける株式会社元気な事務所の東郷一重社長にお話を伺いました。

### 映像のワンストップ制作システム



当社の事業は、テレビ番組の企画・制作業務および、WEBサイトの企画・制作・運営業務が中心になっています。ほかにも映像メディアに関わるあらゆる企画・制作業務を手がけており、テレビコマーシャルの制作や、企業・学校等のプロモーション映像制作を手がけています。現在

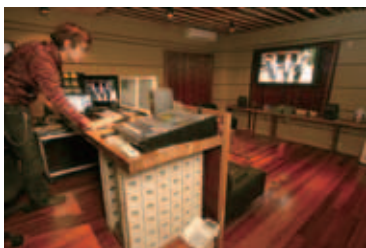
25名のスタッフがおり、制作、CG・編集、ITなどのセクションがあります。

制作セクションはプロデューサー、ディレクター、AD（アートディレクター）、制作デスクらのスタッフで構成され、映像作品を生み出す中心的な存在です。ユニークな企画を立案し、プランに沿った綿密な撮影計画を立て、撮影を実行するにあたり大勢の現場クルーを監督します。その後もCGや編集のスタッフと協調して作品を仕上げます。

CG・編集セクションは、デザイナー、エディターで構成され、映像作品のクオリティを高めるためのフィニッシング業務を担当しています。CGは様々なコンテンツ制作に要求される高度なビジュアルエフェクトやアニメーションなどの制作現場です。編集ルームは、5室が稼働しており、すべてデジタル放送によるハイビジョン化・HD化に対応しています。

ITセクションはインターネット関連の開発業務に携わるWEBディレクター、デザイナー、プログラマーで構成されています。弊社では映像のメリットを活かしたWEBプロモーションを得意としており、他社にはまねのできない高い効率の開発事業を行なっています。

自社内に撮影スタジオ設備もあり、テレビ番組のキャスター登場シーンや、商品撮影も機動的に実施できます。



編集ルーム

### 映像素材とCGの融合からのスタート

創業前の一時期はフリーランスのディレクターやデザイナーが数名集まる規模のコミュニティでした。自由闊達な環境でCGと映像編集のコラボレーションの試行錯誤を繰り返し、高い効率でユニークな作品を生み出すことができ

るようになりました。その仕組みを応用して企業プロモーション作品やテレビ番組の制作事業を開始し、準備期間を経て1990年に会社を設立しました。

### CG内製化の先進性と編集のノンリニア化

創業当初にはCGがようやく映像制作現場で普及し始めましたが、数軒のCG制作プロダクションが東京に存在しただけでした。当時CG映像は非常に高価で、製作期間も長く、我々の映像作品に導入することは容易ではありませんでした。

それらの課題を解決するためにCG映像に特化したハードウェアを新たに導入し、CG製作の内製化を推し進めました。そして当社は、番組制作とCGの一貫製作のメリットを最大限に活かし、一般の制作会社との差別化を図ることができました。

受注製作の作品以外にも新たな試みとして、製作事業者が自由に使えるCG映像素材の開発にも着手しました。そして、バイアウト(売り切り)のライセンスフリーCG映像集を発売し、数多くの制作会社からお問い合わせをいただき、全国でご活用いただきました。

また、当時は映像編集スキームがデジタル化によって変革していった時代でもあり、当社でもいち早くコンピュータによるデジタル編集技術の導入を決断しました。

当時の映像編集作業は、テープからテープへのダビングを繰り返し移すというアナログな手法で行われていたものが主流で、これらの編集室の設備は1億円以上と高価なため、編集専門の技術会社に作業を依頼することが多い時代でした。これに対して、比較的コストを抑えて導入することができるノンリニア編集システムを複数採用することで、飛躍的に制作効率を高めることができるようになりました。

しかし、その後の技術の進歩とともに、パソコンでのデジタル編集(ノンリニア化)が主流になります。編集機器等の費用が抑え易くなってきたことにより当社では率先して自前の編集室を次々に備えていきました。

これらのCG・編集システムを整備したことが、当社の事業の成長を支えるインフラとなりました。

### 時代に即した制作スタイルを常に追求

会社がスタートした直後、ちょうどバブル経済が終わろうとする頃から、テレビのレギュラー番組制作の仕事が激減した厳しい時期に入りました。テレビに限らず、コマーシャルやプロモーション映像の案件も目に見えて減少する

時代に直面しました。さらに製作費も抑制される状況が続き、従来の制作業態を維持していた組織では、外注率が高く、利益を確保することが難しい時代に突入しましたが、当社ではCG・編集などの内製化率を高めたことで、この厳しい時代のレースに生き残ることができたと考えています。

この制作セクション、CG・編集セクションのスタッフによる一貫した制作体制と、効率の高い設備の導入によって生み出される映像作品が、クオリティの高さを維持できたのも当社の追い風となりました。

業界全体はさらなるデジタル化が進みました。カメラや製作機材がコンパクトで高精細になり、クライアントの要望は高く、制作のコストが低くなる中で、時代が求める様々な対応ができるよう常に形を変化させてきました。また、そうする必要があったということです。



撮影スタジオ

### 能動的な番組制作とその展開

制作した番組は、放送局で1回放送されて終わり、という常識がありました。多チャンネル化や視聴者のニーズの変化によって、2次利用、3次利用の運用が進んでいます。それは番組販売や、DVD化、インターネットの動画配信、海外への対応など、さまざまな展開が広がっています。

これらにも対応した番組作りは、今までになかった制作ノウハウなども求められていますが、当社では柔軟に対応してきた制作体制を活用し、新しいコンテンツを発信しています。

### 独立民放局の共同出資による「制作委員会」方式

昨年秋から放映開始した番組『温泉女子』は、KBS京都などの独立民放局7社とタレントプロダクション、そして当社9社が共同出資して「製作(制作)委員会」を立ち上げ開始した番組です。

参加各局は低コストの出資でクオリティが保証された番組が手に入り、収益は出資額に応じた分配を受けます。さらにローカル局への番組販売やDVD販売などで利益が出る可能性も広がっています。この方式は2007年、コンテンツ不足の解消と系列局に負けないネットワークづくりを目指した「東名阪(とう・めい・はん)ネット6」に端を発したものです。

当社ではタレント森脇健児さんが出演する『走る男』を企画し、この制作方式で実現した最初の番組となりました。

独立民放局1局だけでは厳しい経営環境の中、可能性を秘める方策の一つであり、話題作を作るべく関西でも数少ない参加企業として当社は率先して取り組んでいます。

### 存在意義を確かめ、 オンリーワンのオリジナリティを追求

当社は基本的にはヒット番組や品質の高い作品を作るよう仕事の機会を求め続けています。視聴者に支持される番組を作って勝負していくためには、他ではマネのできない作品を制作し続けることが必要です。

ただ、当社が関わっている映像作品は、ニュースや報道などに求められるような情報とはちがいます。それらの事実を目を向けるとき、当社の存在価値は何かということについて改めて思いをめぐらせることがあります。それは例えば、東日本大震災のような災害に直面した時に、我々がやっていることが無力だと感じる事があります。番組や映像制作によって、世の中とどう交わり、社会にどう貢献できるのかを常に自問自答することで答えを見つけるしか無いと感じています。

しかし一方で、「番組を観て勇気づけられた」「テレビを観て私も走りはじめました」「番組は私の青春時代そのものです」…等々の反響があるのも事実で、当社が制作する番組が人の生き様や社会に関与しているのではないかという想いを受け止めて制作することを心がけています。

テレビ番組や映像を作るモチベーションと魅力は、どこかで人を勇気づけるとか、何か社会に貢献するというのが基本だと思います。これからも当社は社会での役割を果たせるモノづくりが提供できる会社として頑張っていきたいと考えます。



社屋

### DATA

株式会社元気な事務所  
代表取締役社長 東郷 一重 氏

所在地 〒602-8134 京都市上京区大宮通丸太町上る一丁目857番地3 GENKI2F

設立 1990年  
資本金 3800万円  
従業員 25名

事業内容 テレビ番組の企画・制作、映像メディアに関わるあらゆる制作業務、ビデオ編集並びにMA業務、コンピュータグラフィックスの制作業務、デジタルコンテンツの制作業務、WEBサイトの企画・制作・運営

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター  
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497  
E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp